

鴛羽

ときは



鴛羽色は、日本の天然記念物である鴛の羽色にちなんで名付けられました。鴛の風切羽のような黄みがかった薄い桃色のことで、江戸時代には若い女性の小袖（こそで）の色として人気を集めました。

